令和七年度

奥の細道矢立初めの地
子ども俳句相撲大会　句集



主　催　荒川区
　　荒川区教育委員会

日　程　令和八年三月実施

俳句のまち あらかわ

子ども俳句相撲大会　句集

―松尾芭蕉『おくのほそ道』　旅立ち―

千じゆと云(いふ)所にて船をあがれば、前途三千里のおもひ胸にふさがりて、幻のちまたに離別の泪をそゝぐ。

行春(ゆくはる)や鳥啼魚(とりなきうを)の目は泪

是を矢立の初として、行道(ゆくみち)なをすゝまず。人々は途中に立ちならびて、後(うしろ)かげのみゆる迄はと、見送(みおくる)なるべし。

ごあいさつ

「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」は、今回で十七回目を迎えます。この大会は、松尾芭蕉が、元禄二年（一六八九）三月に奥の細道に旅立つ際、矢立初めの句「行く春や鳥啼魚の目は泪」を南千住で詠んだことにちなんで誕生しました。南千住が奥の細道矢立初めの地であることを広めるとともに、子ども達に日本の伝統文化である俳句の素晴らしさを伝え、豊かな感性と表現力を育むことを目的としています。

今年度も予選を勝ち抜いた子どもたちに、春の息吹を感じる決勝の俳句とその絵を描いた作品を届けてもらいました。小学生俳人たちの個性と魅力があふれる句集をお楽しみください。

また上位入賞チームのパフォーマンスは、後日動画を配信いたします。ぜひご覧ください。

結びに、本大会の開催にあたりましてご協力いただきました関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

令和八年三月　荒川区　荒川区教育委員会

もくじ

ごあいさつ・もくじ……4
大会の流れ……5
予選の句……6
決勝の句……7
総評・披講……12
芭蕉さんへのご報告……13
荒川区俳句のまち宣言……14

大会の流れ

予選

二人一組で1チームを作り一人一句の俳句を作成。応募があった荒川区の83チームの中から18チームが、決勝に進出

決勝

予選を勝ち進んだ18チームによる決勝。模造紙に書いた俳句作品を、審判員の点数の合計で判定。横綱（優勝）、東の大関（準優勝）、西の大関（三位）、関脇（四位）、小結・技能賞・敢闘賞・殊勲賞等があり、審判長・審判の審査により決定

【例言】

・本誌は、令和八年（二〇二六）三月、荒川区・荒川区教育委員会主催により開催する「奥の細矢立初めの地子ども俳句相撲大会」の句集です。

・本大会の句は、予選は「春の季節」、決勝戦は、「雨水」「ミモザ」の兼題をもとに作られています。

・本大会予選には、荒川区内の小学校十五校から計八十三チームの応募があり、荒川区俳句連盟（佐々木忠利氏、小松孝子氏、田中礼子氏、竹野美恵子氏、田岡弥寿子氏、菅谷安男氏）によって選考が行われました。

・審判長　対馬康子先生（俳人、現代俳句協会副会長、俳誌『麦』会長、俳誌『天為』最高顧問）。審判員　佐々木忠利先生（荒川区俳句連盟会長）、能圓坊貴子氏（素盞雄神社権禰宜、文化室学芸員）、荒川区、荒川区教育委員会が務めました。

・予選の句は学区順、決勝の句は獲得点順（賞順）になっています。

予選の句

（順不同・学区順）

にゅう学しきお花もゆれていわってる
波に乗り幸せ運ぶ桜貝
花落ちてなおも散らない思い出や
花届り届きて青き荒川の空
猫の恋新たな命春の風
お花見で花を見るより団子派だ
茶つみ行く赤いたすきにすげのかさ
ひなあられ色つき人気そうだつせん
山笑うほっぺがピンクてれてるの？
花粉まうくしゃみ連発つらすぎる
合唱が春日の下でなりひびく
うぐいすが時を宣告野に山に
うす紅の地を埋めつくす残花かな
シャボン玉空飛ぶ宝石きれいだな
妹と初めて歩けた桜道
花粉症つらい季節だ春の風
桜散る出会って別れて思い出に
梅の花地面に落ちてはかないな
レッツゴーそだてたあげはかぜにのる
覗かれて半分こするさくらもち
花便り次に向けての挑戦だ
桜散り次第に見えた広ぐ青
啓蟄や草の隙間の命の音
雨上がり桜で光る水のたま
山笑ういっせーのでこんにちは
きょねんでたにゅう学しきはむかえるばん
花冷えに揚げ物一つ笑み二つ
卒業だここから始まる新世界
菜の花がひらひらひらとおどってる
新緑鮮やかな色山笑う
卒業式思いをこめたあの背中
桜餅桜みたいな桜色
冬終えて色づく景色花吹雪
新学期広がる世界は新世界
ひらひらと桜舞い散り春が来た
花便り私の成長告げている

2こにこ2くみ（三瑞小）
Shooting Star☆（六瑞小）
前髪がすごい人（六瑞小）
桜（峡田小）
桜影（四峡小）
スズカワ（四峡小）
歴史大好きチーム（九峡小）
さくらまじ（尾久小）
あざらしチーム！（尾久小）
菜の花と三色団子（尾久六小）
桜と三色団子（尾久六小）
シャボン玉（尾久六小）
春うらら（尾久六小）
M&I（尾久六小）
red soil（赤土小）
Daimon100年チーム（大門小）
Mind Benders！（二日小）
あやかほ（六日小）

決勝の句

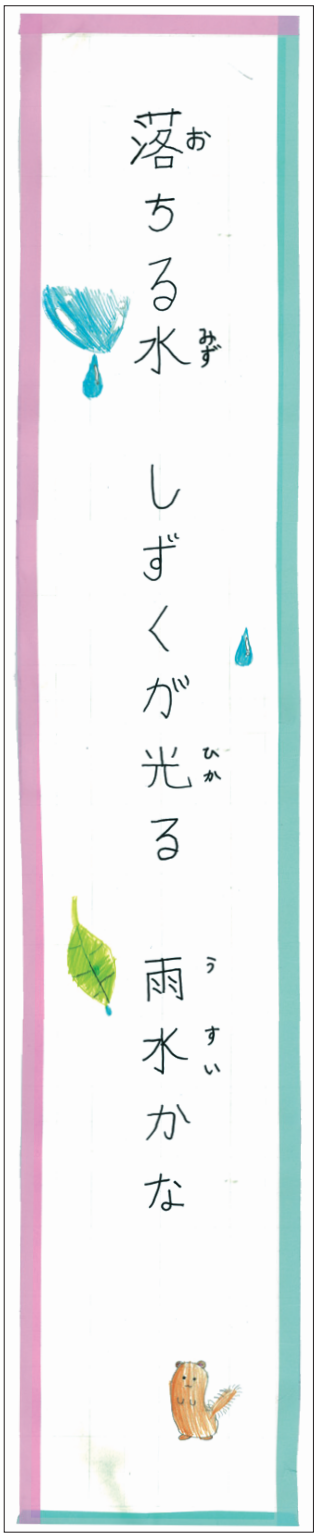
歴史大好きチーム

荒川区立第九峡田小学校　金谷　怜弥さん
武知　実華子さん

【チーム名由来】二人とも歴史がすきだから
【意気込み】予選通るぞー

横綱（優勝）





審判長コメント

ミモザの花にふれる風の中で、午後の声が「ほどける」という表現、冬から春へ移る雨水の季の美しさを、落ちるしずくの光に見つけた感覚、どちらもすてきです。横綱おめでとう。（対馬康子）

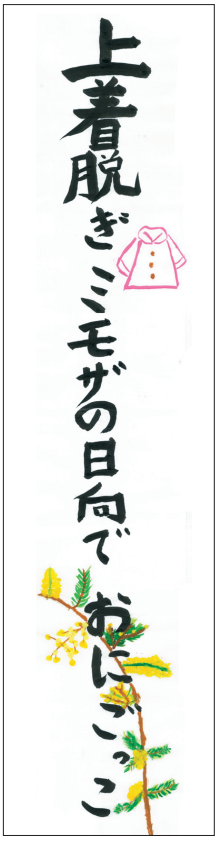
東の大関（準優勝）

Shooting Star☆（ながれぼし）

荒川区立第六瑞光小学校
池野　真理香さん
髙山　由羽希さん

【チーム名由来】流れ星のようにきれいな俳句をよみたいから
【意気込み】自分の満足いく俳句をよむ！





（三位）

前髪がすごい人

荒川区立第六瑞光小学校
天内　奏太さん
今野　裕也さん

【チーム名由来】二人とも寝癖がすごいからです
【意気込み】決勝までいけるようにがんばりたいです



小結

red soil

荒川区立赤土小学校
大塚　望未さん
吉田　彩葵さん

【チーム名由来】学校が赤土小だから赤のｒｅｄと土のｓｏｉｌをあわせてつくりました
【意気込み】横綱目指すぞー！





技能賞

あやかほ

荒川区立第六日暮里小学校
小川　純佳さん
小川　佳穂さん

【チーム名由来】あやかとかほの共通する「か」を合体させました
【意気込み】絶対横綱とるぞー!!





西の大関

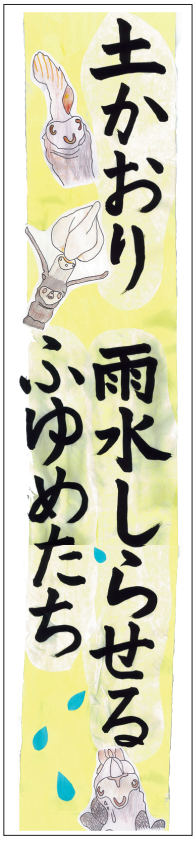


関脇（四位）

2ここにこ2くみ

荒川区立第三瑞光小学校
髙橋　あかりさん
野崎　紗名さん

【チーム名由来】2人ぐみの「2こ」と、えがおの「にこ」と、2くみの「2くみ」です
【意気込み】にゅう学しきのわくわくと、そだてたあげはちょうのかわいさを、はいくでひょうげんしました





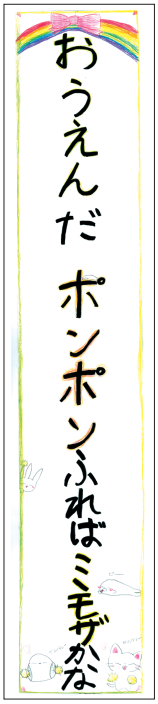
敢闘賞

あざらしチーム！

荒川区立尾久小学校
木野本　結奈さん
弦巻　朱莉さん

【チーム名由来】あざらし二人とも大好きだから！
【意気込み】ぜったい横綱になるぞ～





殊勲賞

シャボン玉

荒川区立尾久第六小学校
斉藤　遼汰さん
中村　日向さん

【チーム名由来】シャボン玉みたいに上に行きたいから
【意気込み】優勝を勝ち取れるようにしたいです





幕入賞

桜

荒川区立峡田小学校
澤田　智葉さん
竹内　杏季さん



【チーム名由来】俳句に桜の成長を表したから
【意気込み】優・勝するぞ！！！



桜影

荒川区立第四峡田小学校
佐久間　奏輔さん
渡邉　景仁さん



【チーム名由来】「桜」は美しく散る潔さ。「影」はその余韻。で作りました
【意気込み】初めてだけど二人で力を合わせて勝つぞー

スズカワ

荒川区立第四峡田小学校



川原　龍太郎さん
鈴木　蓮斗さん

【チーム名由来】二人の名前から二文字ずつとったから
【意気込み】ゆうしょうめざしてがんばります



さくらまじ

荒川区立尾久小学校



大原　杏月さん
大原　小柚月さん

【チーム名由来】はいくで春の姉妹を(さくらにまじ)におきかえることがあるからです
【意気込み】一生けん命考えたので、決勝戦まで行きたいです！



菜の花と三色団子

荒川区立尾久第六小学校



會田　陽莉さん
山崎　倫太朗さん

【チーム名由来】菜の花も三色団子も縁起がいいから
【意気込み】春のよさが伝わるようにがんばります



桜と三色団子

荒川区立尾久第六小学校

小林　湊さん

崎濱　優花さん



【チーム名由来】春といえば

【意気込み】良い俳句を書くぞ!!



春うらら

荒川区立尾久第六小学校

水谷　律希さん

米山　陽彩さん



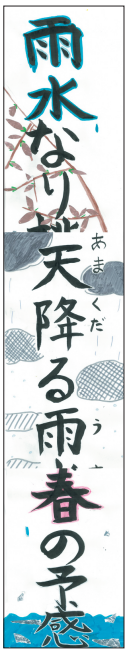


【チーム名由来】言ったときのひびきと意味がすてきだったので春うららにしました

【意気込み】２回目なのでがんばります

M&I

荒川区立尾久第六小学校





市川　心愛さん

王　藝檬さん

【チーム名由来】２人の名前のイニシャルを合わせました

【意気込み】春を感じる俳句をつくります

Daimon100年チーム

荒川区立大門小学校





下総　彩仁さん

松井　來乃愛さん

【チーム名由来】記念すべき大門小は今年１００周年

【意気込み】ゆうしょうできるようにがんばります！

Mind Benders!

荒川区立第二日暮里小学校





尾崎　絢香さん

長沼　叶桜さん

【チーム名由来】Mind Benders!とは心に影響を与えるという意味です。なので私たちもそんな与えられるそんざいになりたいなと思いました

【意気込み】ベストをつくしてがんばりたいです

総評

審判長　対馬康子

「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」に集まった作品の数々に、「俳句のまち あらかわ」の子どもたちの明るい希望を感じました。決勝に進まれた十八チームの皆さん誠におめでとうございます。優勝した「歴史大好きチーム」は、音と光によって春を明るく感じとる、のびやかな作品でした。東の大関の「Ｓｈｏｏｔｉｎｇ Ｓｔａｒ☆」は、ミモザを「小さな陽」と見た発想が秀逸。また「上着脱ぎ」の動作に勢いがあります。西の大関の「前髪がすごい人」は、比喩がきれいで、ミモザの輝きがよく出ています。雨水の句は門出の日々の柔らかな哀感があります。関脇の「２こにこ２くみ」は、短冊がりっぱでした。作品も春の近さを土の香りで表し、ゆびをひらいてミモザの花束を抱える具体性がいいですね。小結の「ｒｅｄ ｓｏｉｌ」は、雨水のころの白くない息と青い空の色彩が鮮やかで、またミモザに友情を重ねたあたたかい作品です。ほかのチームもそれぞれに作者の思いが伝わり、勝敗を付けるのはむずかしいことでした。

十七音の俳句の世界はとても広くて自由です。これからも子どもたちの荒川パワーあふれる作品と再会できますことを楽しみにしています。

披講

桃咲くや風をはつかに矢立の地　対馬康子

鳥帰る足場の組まるビル工事　佐々木忠利

自註　「鳥帰る足場の組まるビル工事」は、渡り鳥の帰還と言う季節の終わりと、都市の成長を象徴するビル工事を対照的に描いて見ました。自然と人間の営みの交差が静かに響くような願いをこめた一句にして見ました。好きな季語の「鳥帰る」に余韻を深めて見ました。

木の芽吹く重たき空気変はりけり　佐々木忠利

自註　「木の芽吹く重たき空気変はりけり」は、春の兆しを告げる「木の芽吹く」と、冬の名残を感じさせる「重たき空気」が響き合い、季節の転換点を繊細に捉えて見ました。「変はりけり」によって、空気の質感の変化が実感を伴って伝わる様に試て見ました。

芭蕉さんへのご報告



松尾芭蕉の碑と俳句の木札

松尾芭蕉が千住から旅立って、約百三十年後、文政三年（一八二〇）十月十二日の芭蕉忌に、千住大橋に程近い素盞雄神社に、千住の人々によって芭蕉の奥州への旅立ちを記念した松尾芭蕉の碑が建てられました。芭蕉の座像と「おくの細道」千住の一節が刻まれています。

子ども俳句相撲大会では、決勝戦用の俳句を素盞雄神社からいただいた木札に書いて、大会審判の先生方ともに、代表チームが松尾芭蕉の碑に報告しています。

荒川区俳句のまち宣言

「行春や鳥啼魚の目は泪」

元禄2年3月この句を矢立初めの句として
松尾芭蕉はその生涯をかけ「奥の細道」へと旅立ちました
芭蕉が渡った千住大橋は江戸と東北の地を結び
私たちを俳句の世界へといざなう大橋として
昔もいまもこれからも隅田川に架かります

私たちの暮らすまちには人々が行き交い
芭蕉の想いと四季折々の美しさに導かれ
子規が一茶が山頭火がこの地で俳句を詠みました

「五・七・五」17文字の無限に広がる世界の中で
私たちは思いを伝える力をもちます
新しいものを創りだす力をもちます
世界中の人たちと心を結ぶ力をもちます

荒川区は
俳句の魅力を次代につなぐ架け橋として
子どもから大人まで俳句文化のすそ野をひろげ
豊かな俳句の心を未来に伝えることを誓い
「俳句のまちあらかわ」を宣言します

表　紙　相撲錦絵「桃太郎・怪童丸」〈部分〉香蝶楼豊国画（国立国会図書館蔵）
扉　名所江戸百景「千住の大はし」歌川広重（荒川ふるさと文化館蔵）
裏表紙　大会キャラクター「ばしょう君」

令和七年度　奥の細道矢立初めの地
子ども俳句相撲大会　句集

令和八年三月

編　集　荒川区立荒川ふるさと文化館
〒一一六―〇〇〇三
荒川区南千住六―六三―一
℡〇三―三八〇七―九二三四

発　行　荒川区・荒川区教育委員会
印　刷　株式会社マステック
登録番号　（〇七）〇一〇七号



大会キャラクター「ばしょうくん」

奥の細道　矢立初めの地　千住あらかわ